

アニマルウェルフェア（動物福祉）基礎研修の主な内容

講師：岡田 千尋 氏（認定 NPO 法人アニマルライツセンター 代表理事）

2019 年 9 月

アニマルウェルフェアや動物への配慮の基本的な考え方

- アニマルライツとは
- アニマルウェルフェアとは、前提となる考え方
- 動物への配慮の 2 つの観点

1. 企業が配慮したほうが良い動物の課題

- 衣類素材（ファー産業、問題点：毛皮の環境問題・人への害・水質汚染・重金属汚染、発がん性物質、高いカーボンフットプリント、水資源）、代替衣類素材の開発
- 化粧品（動物実験）：世界的な反対運動の経緯、世界の動向、国内メーカー動向、薬事法改正で動物実験なしの販売可能に、化粧品動物実験の第三者認証制度

2. 畜産物を取り巻く課題

- 畜産動物の数（世界、日本）、豚・採卵鶏・牛
- 日本の畜産動物たちの現状（豚肉生産・過密飼育、卵生産・ケージフリー、鶏肉生産・食鳥処理・ガススタニング、牛乳生産・フリーストール、豚・牛の屠畜）

3. 畜産動物のアニマルウェルフェア（動物福祉に配慮した飼育）

- アニマルウェルフェアと食の安全性
- 人の健康・抗生物質の耐性菌の問題
- 国際機関の取り組み（OIE、FAO、OECD、世界銀行等）
- アニマルウェルフェアに関する各国法規制の比較
- 機関投資家の関心・ESG 投資：BBFAW（畜産動物福祉に関する企業のベンチマーク）
- 国際貿易障壁となる可能性
- 世界の先進企業の取り組み（M&S、マクドナルド）
- EU の法規制、OIE による日本への指摘、東アジアの取り組み
- オリンピックにおけるアニマル・ウェルフェア基準
- 他国と比較した日本の畜産動物の評価、市民認知度・消費者意識
- 日本企業の取り組み事例

4. アニマルウェルフェアに取り組むメリット・ポイント

- 企業イメージ向上（企業事例）
- 外部のネガティブキャンペーン対象外に（企業事例）
- 課題ごとに AW を導入する（全体、卵、豚肉、牛乳・乳製品、牛肉、鶏肉、輸送、と畜）
- アニマルウェルフェアの企業ポリシーの策定
- ポリシー以外に取り組めること

参考資料

5. グループワーク

6. まとめ

- 畜産物と持続可能性、動物福祉に配慮した飼育への転換へ